

おかげさまで丸の内病院は、開設70周年。



社会医療法人 抱生会

70th
Since 1945

丸の内病院

ひとつつながる。こころでむすぶ

つないできた私たちの「想い」をカタチにしました。

丸の内病院は1945年、石川島芝浦タービン株式会社附属丸の内病院として開設し、今年で70周年を迎えます。この間、常に地域社会において、安心して治療が受けられる医療環境の提供に努力してまいりました。

その歴史の中で、いつしか私たちの病院には、ひとつの「丸の内病院」を表す文字が生まれ、使われるようになりました。それは、苦(九)しみを止める「丸」の字、早く元気になり退院して欲しいという願いを表す人が外側に伸び出た「内」という文字。

この「丸の内病院」こそが私たちが患者さまに対する想いを表現しています。

今後も発展すべく医療環境のなかでも、ずっと変わらずつないでいく想いとして、大切にしていきたいと考えています。

また、このロゴマークの「70」の文字は、当院 中土院長直筆によるものです。



丸の内病院に残る焼印

地域とともに歩んで70年。

つないできた想いと未来に向けて躍進する丸の内病院の姿。



社会医療法人抱生会 理事長
石曾根 新八

70周年に寄せて

社会医療法人抱生会丸の内病院は、石川島芝浦タービン株式会社の社員向けの診療所として昭和18年に開設されました。昭和20年、終戦とともに市民に開放し、その名称が丸の内病院となり、それから70年が経過しました。この間支援していただいた沢山の医療関係者や市民の皆様方に心より感謝申し上げます。これを機会に、今年70周年記念事業を計画いたしましたので、積極的なご参加をお願い致します。この事業の目的は「温故知新」(過去の事例に学び、将来に役立てる)であります。物資不足や医療材料の乏しい中でも急速に進歩した戦後の医療の分析は、超高齢化や人口減少の社会における医療の方向性を考えるうえで役立つものと思います。終戦直後には、入院する患者さんは鍋・釜・布団などを持参し治療を受けていました。医療スタッフと患者さんとは良好な信頼関係にあり、医療者は尊崇の念をもって迎えられ、患者さん中心の医療が実施されていました。現在のコンビニ化した医療提供体制は、患者さんにとっても医療者にとっても満足できるものではなく、もう一度原点に戻って考え直す必要があるだろうと考えております。

地域とともに歩んで70年

当院は終戦の年、昭和20年5月に松本城南側に石川島芝浦タービン附属の病院として発足しました。その後、2回の病院新築移転を経て今日に至っています。2011年12月、当院は社会医療法人となり、これを契機に同社との長い歴史に事実上の幕が下りました。

増え続ける生活習慣病や高齢者の抱える疾病や障害に対し、病院での従来の治療体制は今や限定的な力しか持ちません。多職種のチーム医療がクリニカルパスなどを使い効率的に成果を得る体制になりました。骨粗鬆症も含めた生活習慣病は共通する成因で関連し、広い診療領域にまたがります。認知症では日常生活の質を改善し、良好な生活再建を目指しています。従来の「病院中心型医療」から「生活支援型医療」に軸足を移す時期が来ています。地域に根ざした中小病院はこのことを強く意識しながら将来構想を考えなければなりません。

70周年記念事業を通じ、当院の歴史を振り返り、職員一人一人が当院の将来を考える機会としたい。この事業が成功し、開院以来、諸先輩方の努力により築かれてきた地域における信頼という伝統を、これからもより確かなものに発展させてゆく起爆剤となることを願っております。



社会医療法人抱生会 丸の内病院 院長
院長 中土 幸男



History of MARUNOUCHI HOSPITAL Since 1945

70年の思い出アルバム①

石川島芝浦タービン株式会社附属丸の内病院として現在の松本市丸の内1丁目に開設し、2度の移転を経て現在の地で70周年を迎えます。日本の地域医療の発展とともにその中核を担う病院として発展してきた姿を辿ります。



開設時の病院役職員（病院2階にて）

戦後の物資不足も影響していたであろう開設当時の看護師の服装は、もんぺ姿に下駄履きであった。



丸の内病院の

黎明期

1945 ▶

石川島芝浦タービン株式会社の附属病院として開設された丸の内病院は、昭和20年の終戦を境に、一事業所の病院から地域医療を担う病院として稼働を始めていきます。

戦後の物資不足や幾多の社会混乱、民家を改装した病室等、充実しているとは言えない環境の中で、日本社会の変革とともに着実に成長していく当院の礎となる姿を辿ります。

丸の内病院の

発展期

1968 ▶

昭和43年、旧田町小学校跡地（現松本市開智2丁目）に移転し、新たな病棟で診療を開始した丸の内病院。充実した診療体制の実現に向けた改革も着実に構築を進めることとなり、

リウマチなど特化した診療を始めとする診療科目のセンター化もこの時代に始まります。

さらに病院機能をより高める設備の拡充や高度医療体制なども活発化されていきます。



開智の病院建築風景右手奥に見えるのが旧開智小学校（昭和42年9月）

現在の丸の内病院（松本市渚）の建設風景。病床数199床（内介護療養型病床35床、回復期リハビリテーション病床20床）となる。



丸の内病院の

飛躍期

2007 ▶

平成19年、現在の地「松本市渚1丁目」への移転。同時に病院の環境や体制も変革を見せます。

母子医療センターの開設にはじまり、社会医療法人としての認可、チーム医療体制の強化、医療・介護・福祉サービスの充実を図る在宅複合施設の建設、亜急性期病棟から地域包括ケア病棟への転換など、将来の社会情勢を見据えた活動が飛躍をみせる時期へ入り始めてきました。

History of MARUNOUCHI HOSPITAL Since 1945

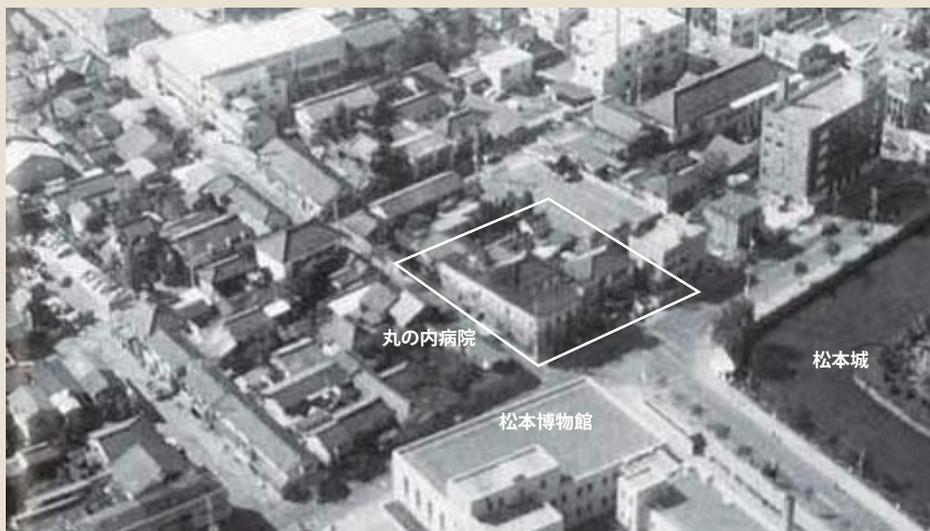
70年の思い出アルバム②

1942(昭和17年)

松本市大字北深志地蔵清水4番地イの1(現在の丸の内1の11号)にて
石川島芝浦タービン株式会社附属丸の内病院開設



開設者 土光敏夫 松本工場生産責任者。
診療科目は、内科・外科・産科・婦人科・小
児科・耳鼻科・眼科であった。



上空から見た旧病院棟(現在の松本市丸の内1丁目、テレビ信州社屋)。右下に松本城のお堀が見える。当時は丸の内中学がここにあった。(撮影は、昭和32年)

1945(昭和20年)

丸の内病院開設

病院名を丸の内病院とし、一事業所の附属
病院から広く地域医療のために開放して
診療を行うことの変更許可がおりる。

1949(昭和24年)

第1回病院ピクニック実施



大町市木崎湖へ。
当時の病院職員によるレクリエーション
の貴重な風景。

1951(昭和26年)



医療社団法人抱生会として 登記完了

抱生会の命名は、青木理事長の依
頼により、元市議員 森直蔵氏
(たつみ亭社長)が行う。

History column

「丸の内病院」という名の由来

初代院長の熊谷直俊先生の30年のあゆみの寄稿には病院の名前について、若い父親がやがて生まれて来る長男の名前をあれこれと考えるように、ああでもない、こうでもないと思い巡らしていました。結局、病院の位置がお城のそば、松本市の中心、東京でいえば丸の内に相当する場所ですから、将来は市の中心的な病院になってほしいとの思いを込めて「丸の内病院」を提案されたと書かれていました。病院ができる前には、松本では「丸の内」は地名、会社、商店などの名前としても耳にしなかったようです。

1967 (昭和42年)

開智への移転

理事長が大林組と協議し、12,400万円の枠内で新築することを決定。

新築予定地の旧田町小学校跡地に境杭を入れる。



新病院での標榜科は、内科、小児科、外科、整形外科、産科、婦人科、放射線科であった。

1979 (昭和54年)～

医療技術・医療機器の発展

1970年代後半から80年代にかけては、院内整備が活発に行われ、病院規模も拡充を図っていきます。

1979年 検査室に自動分析装置を導入

1980年 CT装置稼動

1981年 無散瞳眼底撮影カメラ購入

1983年 リウマチセンター設立・整形外科を開設しリウマチ診療を開始
無菌手術室ICU増設および手術室増改築

人工関節置換術を初施行

など最新医療体制が構築されてきました。



1970年代の病棟



1970年代の手術室風景



1970年代の新生児室風景



1970年代の検査室

1990 (平成2年)～

医療体制の充実が進む

1980年後半から当院では、更に医療環境の充実化が進みます。1989年には「優良短期人間ドック施設」としての指定、1990年には、医療相談室(連携室の前身)が設置され、患者さんやその家族からの不安や心配事の相談を受け、また福祉行政等に関する調整をする部門が稼働し始めました。さらに、1997年には、訪問看護ステーションの開設など、地域への貢献や医療を取り巻くサービスの基礎が固まり始めました。



1994年 第1回病院祭開催

2007 (平成2年)～

新病院竣工から地域医療の更なる発展へ

2006年には病院機能評価V5.0認定になるなど病院の機能のシステム化や電子化が進み、万全の医療体制が構築されてきました。そして、2007年には、現在の松本市渚へ病院新築移転が始まり、病床数199床(内介護療養型病床35床 回復期リハビリテーション病床20床)となりました。

また、2011年には、社会医療法人抱生会として認可され、病院機能評価Ver.6認定などへ飛躍していきます。



地域医療の発展に向かって

開設70周年を機に丸の内病院では様々な取り組みを行います。歴史を振り返り、地域の皆様へあらためて感謝のキモチを伝えるとともに、これからも発展し続ける病院を目指してまいります。



これからの丸の内病院を担う ヤングボードの設置

これからの病院活動はもちろん、医療界を担う若い力で組織される「丸の内病院ヤングボード」を設置し、理事長、院長と各診療科から選抜されたヤングボードメンバーによる未来の病院の在り方を検討していきます。少子高齢化への対応、先進医療技術への対応、専門診療の発展拡充等様々なテーマで検討し、地域の中核病院としての役割を遂行する体制を構築していきます。



歴史を振り返る 院内ギャラリーの設置

企業の診療所からスタートし、戦後の混乱期を乗り越えてきた病院の歴史や当時の風景等を交え、日頃、地域の皆様になかなか紹介する機会のない写真等をパネル展示等で来院された皆様をご覧いただくスペースを1F総合案内所付近に設置しました。

日本の医療の歴史をも垣間みる事ができる貴重な資料の展示となりますのでご来院の際には、是非お立ち寄り下さい。



12月には、記念イベント 市民とともに開催

12月26日[土] AM10:00より

松本市民芸術館

本年は、70周年記念イベントとして【～食と健康を楽しく～】をテーマに松本市民芸術館にて開催致します。

地域の皆様にお楽しみいただけるものとして、著名人による特別講演会や健康講座、お楽しみイベント等盛りだくさんの企画でお待ちしています。

70周年特別事業スケジュール

4月1日(水)

- ・院内ギャラリー設置
- ・ヤングボード活動開始

6月27日(土)

- ・70周年記念祝賀会
(ホテルブエナビスタにて)

6月中旬

- ・病院敷地内にて記念植樹

6月中旬

- ・病院職員による
記念オブジェの制作／展示

8月1日(土)

松本ぼんぼんへの参加

12月初旬

70周年記念誌発行

12月26日

記念イベント開催



社会医療法人 抱生会



丸の内病院

ひとつつながる ○ ころろでむすぶ

〒390-8601 長野県松本市渚1丁目7番45号

TEL.0263-28-3003(代表) FAX.0263-28-3000(代表)

URL <http://www.marunouchi.or.jp/>

社会医療法人抱生会 丸の内病院関連事業

- 丸の内訪問看護ステーション
TEL : 0263-87-8157 FAX:0263-87-8352
- 丸の内在宅介護支援センター
TEL : 0263-87-8257 FAX:0263-87-8352
- 丸の内ヘルパーステーションほほえみ
TEL : 0263-87-8261 FAX:0263-87-8352

- リバーサイドまるのうち (サービス付き高齢者向け住宅)
- 四季の風 (小規模多機能型居宅介護施設)
- 丸の内病院健診センター

- リハビリ専門デイサービス常念望